

第167回国際研修に参加して

警視庁 警部 山根 祐夫

今回、この研修に参加させて頂いたことを心より感謝申し上げます。
私は、今まで色々な研修に参加してきましたが、この研修は最も充実していた上、大変印象深く、生涯忘れることの出来ないものとなりました。

1 研修内容について

研修には、海外から14名、国内から7名が参加しました。

今回のテーマである「組織犯罪メンバー及びテロリストの更生及び社会復帰」については世界でもまだそれほど検討が進んでいない領域である一方で、その脅威に直面している国においては、今まさにその更生及び社会復帰施策が求められているという非常に難しくも重要なテーマでありました。

研修は、教官等による日本の法制度の説明、海外参加者と国内参加者によるプレゼンテーション、国内外実務者及び専門家による講義、国連職員の講義、法務省・裁判所・麻薬取締部への訪問、保護司による講演、保護司宅訪問、研修旅行における日本の矯正保護施設等の見学、グループワーク、そして最後にグループワークで検討した結果を集約し発表するという流れで進んでいきました。

私はプレゼンテーションで日本の元暴力団員に対する社会復帰支援施策について発表したところ、海外参加者から「日本の制度は素晴らしい、是非この制度を国に持ち帰りたい」との感想を頂き、夏休みを返上してプレゼンの準備をした甲斐があったと思いました。

その後、国内外の実務家・専門家・国連機関職員の講義を受け、現在の矯正保護のグッドプラクティスを学ぶとともに、テロリストの現状や過激主義者の社会復帰に対する見識を深めました。

また、保護司による講演を受け、保護司宅を訪問することにより、日本の保護司制度に対する理解を深めました。

保護司宅に訪問した際、海外参加者は「私の国の高齢者は退職したら、そのほとんどが、自分の人生を楽しむ為に海外旅行に行ったり、趣味を謳歌しているのに、日本では多くの高齢者がボランティアで保護司活動をし、社会貢献している姿に大変感動した。」とっておりました。

私も恥ずかしながら、それまで保護司制度については良く分かっておりませんでした。保護司の更生復帰に対する熱い思いを聞くほどに、保護司に対する尊敬の念が強くなっていったと共に、このような制度がある日本に誇りを感じました。

更に研修旅行では、少年鑑別所・少年院・刑務所・更生保護施設を見学し、日本の矯正保護制度を深く理解するとともに、現場の実務者の熱意を肌で感じることができました。

特に、京都の更生保護施設「盟親」の施設長が「刑務所を出所した者の中には身寄りがおらず、社会にも居場所が無くて、寂しい思いをしている者がいる。我々はそのような者の家族のような存在となって、彼等を保護し社会復帰させていく事に尽力している。それが彼等の再犯を防ぎ、社会への貢献にもなる。」と熱心に語る姿は、外国人参加者に感銘を与えました。

2 グループワークについて

このような過程を通じて、今回の研究テーマについてそれぞれが見識を深めた上で、最後に大詰めのグループワークが行われました。

グループワークは二つのグループに分かれて行われました。

一つのグループのテーマは「組織犯罪メンバー及びテロリストに対する矯正施設内における処遇について」、もう一方は「組織犯罪メンバー及びテロリストに対する矯正施設外における処遇について」であり、私は後者のグループに参加しました。

現在世界の多くの国の刑務所では過剰収容に悩まされている事から、拘禁に代わる措置が必要であるということが大方の一致した意見となりました。勿論、重大な罪を犯したものに関しては必ず拘禁をしなくてはなりません。軽微な罪を犯した者に関しては、社会内で更生させていく事が大事であるという結論に至りました。また、社会内更生は矯正施設から出所した者に対するものと拘禁に至らなかった者に対するものの二通りがありますが、いずれにおいても、保護司等のボランティア、マスメディア、宗教団体、企業、NGOの役割が重要であるということで一致しました。

そして、拘禁に代わる措置を行う上で必要な事の一つは、判決前の事前審査であるという意見も出ました。

また、ある参加者からは犯罪者を社会復帰・更生させていく上で、修復的司法が重要であるという意見が出ましたが、一方で他の参加者からは修復的

司法は現実的ではないという意見も出る等，その国々の人口，コミュニティーの状況等により意見が分かれるところも多々ありました。

現在，実際にテロの脅威や，外国人戦闘員の帰国問題等に直面している国の出身者にとっては，他国の施策を聞いたり，社会復帰の方法等について議論したりする事は，帰国後すぐに現場に還元できる事でありますでしょうし，また，現時点ではそのような脅威に直面していなくとも，どの国においても直面する可能性があるので，将来を担う各国の司法矯正保護の実務者が真剣に議論を交わし，現在考えうる最善策をまとめるということは，参加者にとって貴重な経験であっただけでなく，参加国の社会の安定に多少なりとも寄与していくことになったのではないかと思います。

3 海外参加者について

参加者は，寮において約1ヶ月間共同生活をします。部屋こそ個室ではあるものの，食事は食堂において共にとり，余暇には寮に設置されたラウンジ等で様々なことを語り合いました。

厳しい生き立ちを涙ながらに話す者，国の厳しい現状を訴える者，ダンスが上手な者，歌が上手な者，食べ物を皆に配ってくれる者，世話好きな者等々，様々な個性の方々と共に生活し，議論し，歌ったり，踊ったりしていくうちに，お互いの距離はどんどん縮まっていき，いつの間にか，かけがえの無い仲になっていきました。

また彼等と仲が良くなるにつれ，日本の文化や歴史についての質問も多くなり，日頃当たり前にとらえている日本の文化や日常生活についていきなり聞かれると「それってそもそもなんでなんだろう」と返答に窮することがあり，日本文化に不案内な自分を恥ずかしく思いました。

研修の初期段階に海外参加者の一人が作ってくれた SNS グループに多くのメンバーが参加して，それぞれのコメントや写真をアップして情報を共有したり，冗談を言い合ったりして，親交を深めることができました。そして，研修が修了した今でも，そのグループを使って連絡を取り合っています。

4 国内参加者について

今回の国内参加者は，判事・検察官・矯正処遇官・保護観察官・警察官でした。

他機関の方と同じ施設の中で寝食を共にするとともに，協力して外国人参加者の観光案内や生活をサポートする過程で，日本人同士の絆も深める事が

できました。

また、日頃は他機関の方と深くお付き合いする機会が乏しい私にとって、共同生活をしながら、それぞれの組織や業務内容、私生活や考え方等を共有し、親交を深める事が出来た事は貴重な経験となりました。

5 余暇の過ごし方

余暇時間には、卓球、ビリヤード、カラオケ、輪投げ、各国紹介のプレゼンテーション等様々な事をしました。また、自主企画として外国人参加者の買い物同伴や観光ツアー等を企画するなどして、彼等と一緒に過ごしました。

イベントを企画する度に、海外参加者がとても喜んでくれるので、それが非常に嬉しくて、彼等を喜ばすためには次に何をすればよいかを日本人参加者同士で相談し、協力し合いながら様々なイベントを企画しました。

例を挙げますと、東京タワー、皇居、スカイツリー、阿波踊りの見学、サッカー、大相撲の観戦、浅草・アメ横・渋谷・新宿へのショッピング、モスクへの参拝等々。

大相撲観戦は当日券を取る為に早朝に寮を出発しましたが、朝が早かったせいか、海外参加者は肝心の中入り後の頃には非常に眠そうで、反応もいまいちでした。一方、別の日に渋谷へ出かけたところ、彼等はスクランブル交差点に大変感動して、スクランブル交差点を何回も往復しておりました。

大相撲よりもスクランブル交差点に興奮している彼等の姿を見て、我々の感覚とは違うことを実感いたしました。

6 最後に

今まで私は、犯罪捜査やその予防に関わるが多かったのですが、犯罪者の社会復帰、更生業務に関わることはほとんどありませんでした。今回の研修を通じて、日本の矯正保護制度について改めて学ぶことができた上、矯正保護の重要性を再認識するとともに、テロの懸念が迫っている昨今、中東や東南アジア等の脅威が高まっている国では、テロリストの社会復帰は喫緊の課題であり、日本においても対岸の火事ではないと痛感しました。この国際研修に参加し、見識を深め、検討し、結論、提言をまとめる事ができたことは、大変有意義でした。

このように UNAFEI では、新しい知識を習得し、違った視点から自らの業務を見つめなおすことが出来るだけでなく、グループワークにより良い提言をまとめる事が出来れば、国際社会に対する新たな提言を示す可能性を有す

るとともに、発展途上国の方に日本の施策を紹介する事で国際貢献する事も出来ます。

しかし、それより何より、一か月間の研修を通じて海外参加者、国内参加者とのかけがえの無い絆を構築することが出来ます。ここで得た絆は何物にも代え難い一生の財産となり、今後もこれを大事にしていきたいと思っています。

私は、この研修の話を上司から頂いた時に、英語力も不十分な上、今回のテーマにあった十分なキャリアも有していなかったことから、自分には荷が重いので辞退しようか迷いましたが、折角の機会なので参加させて頂く事にしました。

もし仮に、また UNAFEI に参加させて頂ける機会がありましたら、私は一瞬も迷う事無く参加することを希望するでしょう。

多少の語学力の不足は問題なく、すぐに海外参加者とも打ち解ける事が出来ますので、もしこの研修の打診を受けた方がいらしたら、是非躊躇する事無く、この研修に参加される事をお勧めします。断った場合は私が代わりに参加させて頂きます（笑）

このようなかけがえの無い経験をさせて頂いた事に深く感謝するとともに、この研修に関わったすべての方に感謝を申し上げます。